

カリフォルニア大学サンディエゴ校には、東大公共政策大学院とも学生交換協定を持つ国際関係・太平洋研究大学院がある。アジア太平洋諸国の言語を第2外国語として要求しているユニークな公共政策大学院である。大型連休中にこの大学院を訪問し、ゲスト講師をした。日本語のクラスで、今学期は国際貿易を題材に勉強しているとい

## 日米FTA

東京大公共政策大学院副院長 伊藤 隆敏



議論ができた。その一端を紹介する。

う。そこで、「経済観測」で日本の農業政策と自由貿易協定（FTA）について書いたものを題材に学生と議論した。なかなか上手な日本語で活発な議論ができた。その一端を紹介する。

関税引き下げに消極的であることから遅々として進まない。日豪FTAが合意できなければ、民主党の公約である日米FTAはワシントンで一顧だにされない、という政治経済学も学生はよく理解した。

そこでクイズを出してみた。日本で一番高い関税率の農産品は何か。学生の答えはコメ。もちろん、コメの関税率は高い（77.8%）。だが、もっと高い関税率がある。答えはコンニャク芋の170.6%だ。

1980年代から90年代にかけての日米貿易摩擦や、日本のコメへの自由化要求は、学生の記憶にはない。それでも、カリフォルニア米は、学生にも身近な話題だ。学生からは「たとえ日本が関税率を引き下げて、自由化したとしても、カリフォルニアは水不足のため大幅増産で日本に輸出攻勢をかけることはできない」との指摘もあった。最後はカリフォルニアと日本の食文化の話になって和気あいあい授業を終えた。